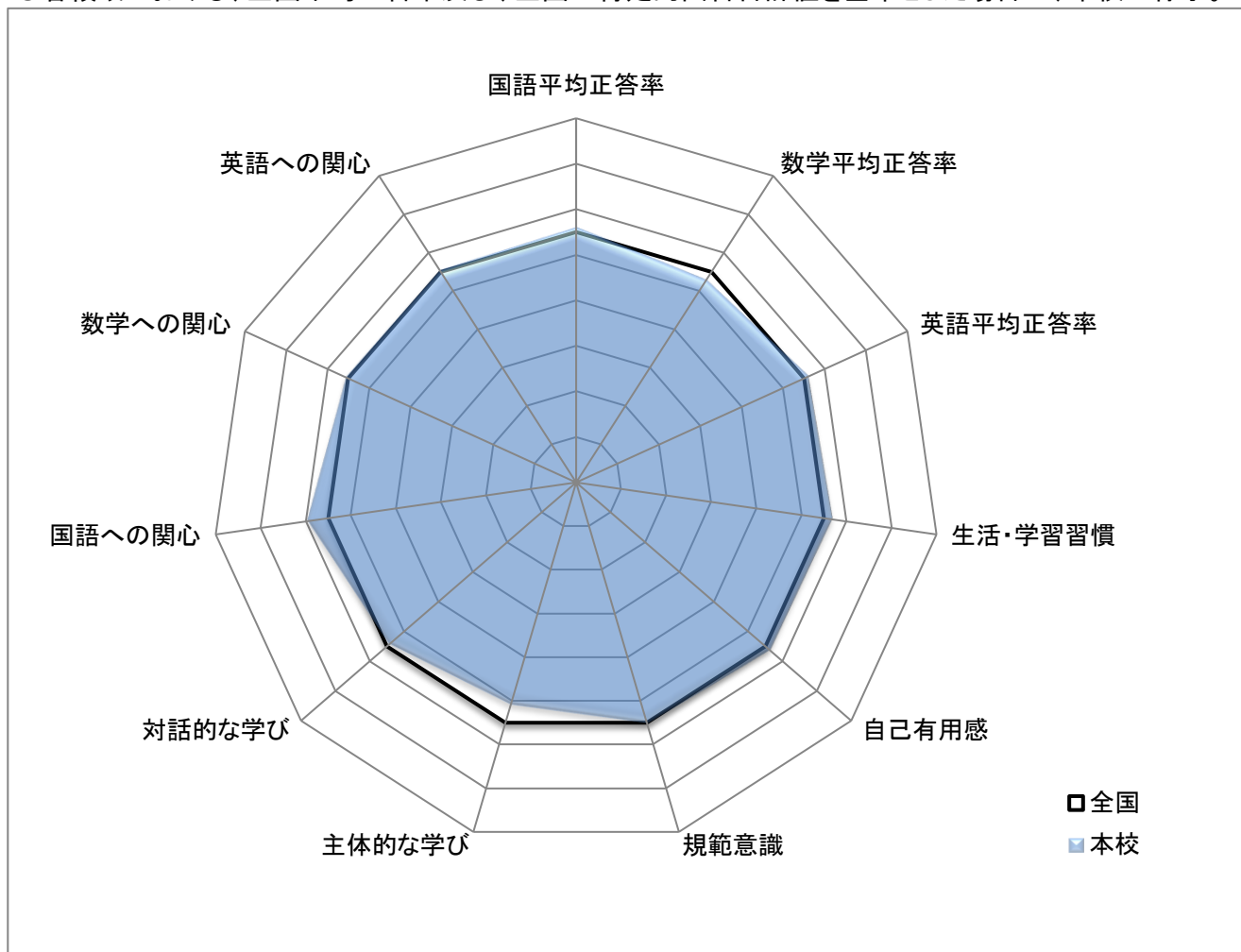


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・国語の授業の内容がよくわかり、国語の学習が好きという生徒が多いため、国語への関心が全国の肯定的回答合計値より高い。
- ・数学の平均正答率が全国の平均正答率よりやや低い。
- ・自ら課題を見つけ、取り組む機会が授業で少なかったため、主体的な学びが、全国の肯定的回答合計値より低い。

《授業改善のポイント》

- ・読書科の時間を生かして、生徒自身が主体的に調べ、発表するなどの学習を取り入れていく。
- ・各教科の中でも、主体的に学習するように、生徒自身が課題を見つけ、学べる時間を増やしていきたい。
- ・数学の授業では基本的な計算問題でケアレスミスをしないように、授業の始め等に計算練習をさせる。また、本校で実施している学年・クラス対抗の計算コンテストをさらに充実させる。

《チャートの特徴》

- ・全体的に全国の平均値と同程度になっている。その中でも国語への関心が全国の肯定的回答合計値よりも高い値を示している。
- ・国語と英語の平均正答率が全国の平均正答率よりやや高い値を示している。
- ・数学の平均正答率が全国の平均正答率よりやや低い値を示している。
- ・生活習慣や学習習慣は全国の肯定的回答合計値よりも高い値を示している。
- ・主体的な学びが、全国の肯定的回答合計値よりも低い値を示している。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・生徒自身が自分で調べて学習するため、学校図書館だけでなく、地域の図書館とも連携をはかる必要がある。
- ・生徒自身が何を課題としているか、三者面談などを通して家庭でも認識できるようにする。